

## 「安全な水を…」おたかの森浄水場に赤ちゃんを抱え市民が殺到！

### ●共産党市議団、大混乱の給水作業に立ち会い、市の対応を求め大奮闘

23日、金町浄水場から、乳児向けの暫定規制値を超える放射性ヨウ素131が検出され、東京都は乳児の水道水摂取を控えるよう要請しました。流山市では、急きょ石川県能都町から届けられた給水車一台分の「安全な水」を給水すると、防災無線放送やHPで広報しました。

小田桐議員が直ちに会場のおたかの森浄水場に駆けつけました。現場では、寒空に赤ちゃんを抱いたお

母さんたちが行列をなして、車の渋滞は郵便局まで続きます。市議団は、連絡をとりあって、本庁からの応援、地域の民生委員などに協力を要請し、混乱状況にあった道路の交通整理など、給水作業が回るよう支援しました。能都町からの水が終了した後は、浄水場の井戸水の安全性を確認し給水しています。

職員の数が少ないために、明日からの給水活動には困難があると関係者は話しています。

### ●「避難所に布団を用意するよう市長に伝えます。調理場の確保はやります」…担当部長

いぬい・徳増市議は、23日午前、流山福祉会館から老人福祉センター（東深井）に引っ越しした避難所に、調理場の設置と被災者に布団を準備するよう担当部長に求めました。

避難所に移ってきてから一週間以上経過し、被災者の疲れがたまるばかりです。市は被災者に対して、場所と毛布とお風呂を提供するがそれ以上はできないとしており、多くの方が毛布だけで過ごしてきました。

「布団を用意すべきだ」と部長と直談判する中、市長に伝えるとなりました。その後、10組の布団を用意するので子どもを優先に使ってもらいたいとの連絡が入りました。

調理場については、室外にテント張りで机やガス台、鍋釜などを市が確保するが、調理場の運営は被災者にやってもらうということになりました。

## いま、市長先頭に市役所が丸となって被災者救援に立ちあがる時です

東日本大震災は、私たちが経験したこともない危機です。この時に、市長も議員も職員も救援・復活に力を注ぐのが第一義です。ところが、市役所全体に力をあわせ危機を乗り切ろうという切迫感・臨場感を感じないのはわたしたちだけでしょうか。

この間、相談センターを開設し8名の職員を配置しましたが、それ以上の体制の強化はありません。不要不急の事業は一端停止して、救援・復興支援に職員配

置を大きくシフトすべきです。

被災者の受け入れにも問題を感じます。提供できるのは場所と毛布とお風呂だけ。あとは「自己責任」を求めているのです。市民や関係団体にも協力を呼びかけ、被災者が再出発できるようにするのが、市の役割ではないでしょうか。

市長が危機感を持って救援活動に取り組んでいるのかどうか問われています。

### ●震災にかかわる行政の窓口は

流山市東日本大震災相談センター

7158-1111 市役所

### ●救援活動やお困り事など何でもお寄せください

日本共産党流山市震災対策本部

いぬい紳一郎事務所 7157-6140

小田桐たかし事務所 7154-8253

徳増きよ子事務所 7144-1753

植田和子事務所 7154-0288

市民の救援活動が広がっています。「避難所に布団を」の呼びかけで避難者の数をこえる布団が集まりました。日本赤十字社による昼食時のお弁当の提供もはじまりました。

生涯学習センターを活動拠点にしているNPOも支援物資を被災地に送り出しています。

被災地への救援活動の情報をお寄せ下さい

7157-6140 日本共産党流山市議団事務所ファックスまで